

東京同志社クラブ

本 田 優 章

私は同志社には中学から大学まで長くお世話になった。現在は仕事のため、年に数回京都へ行く以外は、東京に生活を送っている。

十数年の東京生活で真に同志社マンとして活躍出来る機会が校友会の年に一度の集りを除いて余りにも少く、卒業生の縦横の繋りが非常に弱いことを痛感している。それ故に社会においても競争に勝てないような肩身の狭い気持ちに落ちることが多くあった。多くの卒業生の方々もそのような場面に実際直面された事があったと思う。

ちょうど一昨年東京およびその周辺の地域在住の先輩校友実力者の方々が集り、東京における同志社卒業生の集いを強くかつ密にするために、非常な努力によって同志社クラブの設立が実現したので

あった。そして運営委員によるクラブ活動が始められた。しかし残念なことに、クラブ員の絶対数の不足は満足な活動、強力な運営とはならなかった。運営委員の方々には勿論、そのため会社の仕事も少犠牲にするほど、その発展のための努力は惜しまなかったのは言うまでもない。

たまたま昨年は同志社創立九十周年に当り、その記念事業が数多く催され、注目を引いていた。このチャンスにわれわれ東京在住の同志社マンもその意気とスピリットを示そうではないか、かつ同志社マンの組織である同志社クラブの趣旨を徹底しその存在を示すべく記念事業を企画しようではないかという決議がなされた。

辛いクラブメンバーにクローバ

ークラブの出身者がいて、同志社クラブ発展のために特に出演してもらえよう依頼する事となった。何しろ素人の集りが音楽会を主催するので、全く不安の連続であった。そのため運営委員の中には連日連夜集合して、その対策を練る人もあった。実際この音楽会の成功不成功は同志社クラブの今後の運営に大きな影響を及ぼし、それにも増して東京在住の同志社マンの意気にも影響するわけである。皆必死の覚悟で頑張った。

いよいよ当日十一月二十二日夜六時三十分、日比谷公会堂の正面に運営委員全員が集合し準備万端が整った。

公会堂は溢れんばかりの同志社卒業生、校友同窓で埋った。運営委員の顔も喜びでいっぱいだった。全く満足した顔だった。約二千人の方々が会場に集った。この夜ばかりは同志社マンとして東京に生きる生きがいを感じた。

校歌も夜空に一段と高らかであった。音楽会で日比谷公会堂を満席近くに催しは近年に余り例がない、という公堂側の言葉からもこの夜の盛況が伺えると思う。同志社マンの結び付きの強さ、偉大さに私たちは目を見張った。そして感激した。

同志社クラブの第一回目の記念事業はかくして完全に大成功であった。この大成功が私たちの在籍の同志社マンの心を支え、これからそれぞれの社会生活に於ても勇氣百倍して、困難にも打ち勝つてゆける組織となる事を私は期待している。これはど見事に東京の同志社を印象づけた催しは今までも数少ない。上京される若い卒業生諸君、東京同志クラブを東京における同志社の連絡所として、また仕事における良きアドバイザーの諸先輩との交友を深めるためにフルに活用してほしいものである。

(昭三〇大経卒・東京同志クラブ委員)